



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

92.9.15 No.3657

抜本的な安全対策を講じろ

—もうこれ以上殺されるわけにはいかない—

抗議声明

本日十六時すぎ、久住・滑河間の大菅踏切りにおいて、一四五七M列車が警報を無視して踏切りに突っこんだトラックに衝突し、鶴岡三男運転士(千葉運転区)が死亡するという痛ましい事故が発生した。

詳細は未だ明らかではないが、「事故の原因は、トラック運転手の無謀な運転によるものと考えられる」と報道されている。しかしわれわれは、この重大事故発生を通してまず何よりも問い直されなければならないのは、「安全」を軽視し、きり捨て続けたJRのこの間の経営姿勢であると考ええる。

千葉支社ではこの間、八四年三月、茂原・八積間で発生したコンクリートミキサ車との衝突事故、八八年十二月の東中野駅事故、そして今回と、四年ごとに運転士の現職死亡事故が発生している。われわれは決してこれを「偶然」として片づけるわけにはいかない。前二件の事故は、明白に当局による安全対策のたち遅れ、無謀なスピードアップ、「赤信号でも列車をつめる」という驚くべき指導によって惹起させられたものである。

JR当局は、その後も「安全」について根本的に問い直すことを何ひとつしなかった。それどころか、その後もダイ改のたびごとに、安全対策を講ずることもなく、やみくもにスピードアップや合理化を進めてきた。その最たるものが、多くの踏切りを抱える在来線を最高百三十キロで突っ走るといふ、成田エクスプレスのやり方である。来年三月からは、内・外房線にも新型特急が導入され、スピードアップが行なわれようとしている。そればかりではない、この間千葉支社では、車両故障・保安装置故障が多発している。JRは、明らかに第四、第五の死亡事故に向けてつ

き進んでいるのだ。われわれは、もうこれ以上仲間を殺されるわけにはいかない。

また、今回の事故において、強い抗議の意志を込めて指摘せざるをえないのは、十六時過ぎの事故発生から、運転士が救出された十九時〇四分までの間に三時間もが経過していることである。この間の徹底した合理化は、事故発生に対する、速やかな復旧・救出の態勢すら解体してしまつた。もし速やかに救出されていれば、一命をとりとめていたかもしれないのである。また、分割・民営化によって現場から遠くない佐倉機関区が別会社(貨物)となつていなければ、直ちに復旧要員が駆けつけられたはずである。今回の事故には、分割・民営化のもつ矛盾が如実に示されている。

われわれは、JR当局に対し、営利のみを追求し安全を解体する合理化や下らない労務政策を一切に優先させる経営姿勢を中止し、抜本的な安全対策を直ちに講ずるよう、強く要求する。またわれわれは、自らと乗客の生命を守るために、運転保安確立に向けた闘いをさらに強化する決意である。

一九九二年九月十四日

国鉄千葉動力車労働組合